

木製レール

日本の建築では、縁先[えんさき]の戸は障子戸であり、敷居の上を滑らせていました。しかし、明治時代になると、障子戸はガラス戸へと変化します。重くなったので、ガラス戸には車輪が組み込まれ、敷居の代わりに鉄のレールの上を戸が行き来するようになりました。

旧朝倉家住宅のガラス戸は足元が鉄ではなく、堅木[かたぎ]のレール(右写真)になっています。鉄錆による汚損がなく、一つ一つのレールが短かったため交換も簡単だったためと思われます。しかし、これが広く普及したということはありません。



板戸

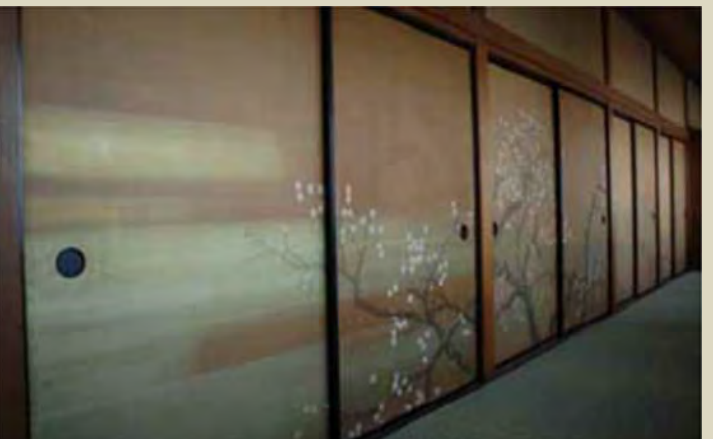


菊

2階階段の踊り場にある板戸には、踊り場側に菊、その裏側には唐獅子牡丹[からじしぼたん]が描かれています。唐獅子牡丹は、日本では古くから描かれてきた画題ですが、旧朝倉家住宅では唯一の、中国的意匠ともいえるものです。

作者は、1階の応接間にある襖[ふすま]や板欄間[いたらんま]、板戸などと同様、狩野永信[かのうえいしん]門下で、後に小堀鞆音[こほりともと]、橋本関雪[はしもとかんせつ]に師事し、文展や日本南画院などで活躍した日本画家、小猿雪堂[こえんせつどう]と伝えられています。

※小猿雪堂[明治21年(1888)生～没年不明]



2階北廊下の襖

唐獅子牡丹